

アコヤガイモニタリング調査結果

(調査日：令和5年10月27日)

愛媛県農林水産研究所水産研究センター

1 調査結果の概要

- ・真珠層の褐変個体は確認されなかったが、全海域で感染からの回復に伴う段のある個体を確認された。
- ・栄養の蓄積状態を示す貝柱のグリコーゲン含量は、全海域で高く良好な状態であった。
- ・貝柱の赤変個体は確認されず、赤変度合を示す a 値の平均値は低かった。
- ・昨年の同時期に比較して卵が良く抜けており、貝重量は低くなっている。
- ・宇和海全域で7月下旬以降高めに推移していた水温は、10月上旬以降は平年並みに推移している。
- ・今後、水温が低下していくことから、貝の状態が大きく悪化する可能性は低いと考えられますが、産卵後の衰弱の影響が出やすい時期ですので、引き続き貝の管理には十分注意してください。

2 調査結果一覧

() 内は昨年同月の値

漁場*1	貝の種類 (R4産)	グリコーゲン含量 平均値 (%)	a 値 平均値	赤変個体 (個)	褐変個体 出現率
北部	日中交雑貝*2	9.8(5.7)	-0.8(0.2)	0	0 (20)
中部①	日中交雑貝	5.6(3.4)	0.1(0.3)	0	0 (5)
中部②	日中交雑貝	6.2(3.4)	-0.8(0.9)	0	0 (5)
南部	日中交雑貝	6.1(1.7)	0.3(0.6)	0	0 (0)
平均値		6.9(3.6)	-0.3(0.5)		

*1 漁場： 北部：三浦半島以北 中部：由良半島から三浦半島 南部：由良半島以南

*2 日中交雑貝：日本貝と中国貝の交雑貝

3 調査方法

- ・5月から11月まで月1回(概ね第3週)、各漁場・種類毎に20個を調査。
- ・サンプルは、愛媛県漁業協同組合本所宇和島事業部が、調査日2日前をめぐりに各漁場で採取して持ち込んだアコヤガイ母貝(2年貝)。

4 調査項目および判断指標

- ・グリコーゲン含量(%): アコヤガイの栄養蓄積状態を示す指標で、数値が高いほど良好。
- ・a 値: 閉殻筋(貝柱)の赤色度を示す指標で、数値が高いほど赤みが強い。

赤みを帯びた黄色で3、明らかな赤色で5以上。